

これまでの暮らしなどつづめる

標茶の荒木さん

移住体験の本を出版

北海道に暮らす道東編

【標茶】虹別オートキャンプ場で夫婦で管理人をしている荒木美紀子(29)さんが上梓した「北海道に暮らす道東編」資金ゼロからの北海道移住」がこのほど、長崎出版から刊行された。仕事を辞めて次の職に就くまでの短いバカンスを楽しまむためにやって来た北海道。そのまま住みついてしまった荒木さんが、これまでの暮らしをどのように地域に溶け込んできたかをつづった。

(黒田文夫)



これまでの体験を本にした荒木さん

荒木さんは大阪生まれ、キャリアアップを目指し、18歳の時に家族と神戸市に転居。武庫川女子大学短大卒業後、大手印刷会社に就職。3年後、道内を回るうちに、わ

て、07年8月には友人で阿寒町徹別の一軒家を借りて新生活スタート。その後、2008年から虹別オートキャンプ場の管理人を務めている。この本を書き始めるきっかけになったのは、脱サラして第2の人生を歩むという移住のイメージが作り上げられていること、これに反対して開設した荒木さんの移住のホームページが5年ほど前、出版社の目に止まって声掛けられた。少しずつ書き始め、最初は阿寒での話で終わる予定だったが、出陣や就職など、生活の状況が目まぐるしく変わり、これまで延び延びになっていた。移住は目的ではなく、過程に過ぎない。私たちは脱サラや新しいスタートを切ったわけでもなく、また夢をかなえただけでもない。知らない動機。こういう移住もあることを知ってもらいたかったと話す荒木さん。

「嫌なごちわかしいと思っごもいっばいあり、地元の人に読んで面白くないこともある」と



「ほぼ」出版された荒木さんの本

思っが、私たちがこれまで楽しんでやってこれたのは多くの地元の人々の支えがあったおかげ」と感謝している。

定価1700円(税別)。虹別オートキャンプ場でも販売している。問い合わせは同キャンプ場荒木さん015-4488-2550へ。